

▼原点「シブヤ魂」とは

成長を支えた普遍の力

「本日は「シブヤ魂と不易流行で目指す100周年」をテーマにお話をうかがいます。」

2031年に創業100周年を迎えます。創業期の「喜んで働く」という原点を胸に、道を切り開いてきた諸先輩方の姿勢がシブヤ魂であり、会社の成長を支えてきた普遍の力だと思えます。

一方、次世代を考えると、変化をしながら取り入れる「不易流行」の考え方が欠かせません。

▼経営戦略と成長の柱

4本柱で各事業を伸ばす

11月公表の2026年6月期通期連結業績予想は売上高1330億円（前期比3・1%増）でした。成長の原動力はどこにあると考えますか。

中期経営計画で、2027年度に売上高1500億円を目標に掲げています。その原動力は、「SHIBUYA未来ビジョン宣言」で示した「生活に不可欠な業界の製造を支えるリーディングカンパニーになる」という揺るぎない方向性です。各事業セグメントが中長期の視点で戦略を描き、パッケージングプラン、メカトロシステム、農業設備の各事業分野で着実な伸びを計画しています。

成長戦略は、新製品・新市場・新事業・環境への貢献の4本柱です。新製品では「ダントツ製品」でお客様の繁栄を支えることを使命としています。その

期待に応えるため、新型2段階菌充填システム、トリプルブロック無菌充填システムなど、次々と新製品を送り出しています。メカトロ分野では接着剤を使わないレーザーボンド、農業分野ではAI（人工知能）を活用したジャガイモの種芋向け選果システムなど、技術革新を加速中です。

新市場では、中国・北米・インド・インドネシアへの展開を強化しました。プラント事業は米国のオハイオやニューヨーク州でサービス拠点を増やしました。医療機器は北米で急伸、中国でも現地生産に対応する組立拠点を整備中です。

新事業では、当社独自の固液混合分散技術（※2）によってリチウムイオン電池材料や高機能接着剤の製造システムに広がりが出ています。再生医療では、世

守るべき精神を大事にしながら、新しい技術や価値観を積極的に取り入れ、お客様とともに進化する企業であり続けたいと思っています。

今年2月には主要役員を集め、「シブヤの将来構想」を語り合う会を開きました。これからじっくり推敲を重ねながら、まとも「SHIBUYA Global Major Evoluat」（仮称）として改めて発信する予定です。

シブヤ魂と不易流行で目指す100周年 ダントツ製品で お客様の繁栄支える

▼技術革新とDX

「現場力」こそ競争力

「コア技術の応用力」に強みがありますが、新たな技術領域の展開は。

リチウムイオン電池の電極材スラリー（泥状の混合物）や自動車・建材向け高精度接着剤などは、ボトリングで培った固液混合分散技術の応用で、どんどん新たな産業分野へ展開しています。前述の自家細胞を「無人運転」で量産する世界初のシステム受注は、細胞バンクという新領域への大きな一歩となりました。

DXでは「一気通貫ものづくりDXプロジェクト」を昨年立ち上げ、営業のビフォーサビースから納入後のアフターサービス（※3）まで、設備状態を予知・予防保全まで含めデータを可視化、多品種少量生産やトレーサビリティ（生産履歴の追跡）強化

など、市場変化への対応力を高めています。

海外においても夜間操業の担い手不足や物流の脆弱化など共通課題があります。こうした背景を踏まえ、高度に自動化されたスマートファクトリー化を支援する技術開発を推進、自動化・無人化・省人化・高OEE（設備総合効率）の実現が中心です。AI・RX（ロボティクスによる変革）を活用した次世代ライン、プラント全体の最適化、統合型ブロックシステムの進化も進めています。

DXと技術革新を同時に進めることで、お客様の生産現場の「安定・高品質・高効率」を支えつつ、BCP（事業継続計画）や省エネ・環境対応にも応えています。技術を支える「現場力」こそ、当社の最大の競争力です。

▼人材と組織文化

社員の自己啓発を後押し

人材育成面で注力している取り組みは。

海外で活躍できる技術者を育てるため、6カ月間の現地派遣「グローバル・ラーニング・プログラム」を実施しています。また新入社員は研修で基礎を習得し、配属希望にも反映させます。さらに社外派遣や大学院派遣などで学びを継続的に支援、資格取得や通信教育も奨励し、社員の自己啓発を後押ししています。

長年、財団活動や教育機関と連携も

北陸発のメーカーとして地域との関わりは。

澁谷学術文化スポーツ振興財団の活動や教育機関との連携を通じ北陸の発展を支えています。

期待・感動・感謝「新3K」を実践
澁谷工業が次世代に継承すべきものは。

創業100周年とさらにその先へ、世界に必要なとされる技術集団として、これまでにない、ほんの「次々と生み出す会社」を目指します。

2030年の売上2000億円を目標とする「シブヤ上げ戦略」の下、DXやRXは各各種

イノベーションを推進、社員が挑戦を恐れず、期待・感動・感謝の「新3K」を実践し、喜んで働ける職場を次世代へ継承していきます。

（※1）不易流行：俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で体得した概念といわれる。不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がないという意味。

（※2）固液混合分散技術：ボトリングのプラント事業で培った技術を応用し、様々な微粉末と液体の混合、分散をインラインで行う澁谷工業の画期的なシステム。

（※3）ビフォーサービスアフタービジネス：導入前から課題把握・改善提案を行う「ビフォーサービス」と、導入後の保守・改良を行う「アフタービジネス」ものづくり企業の総合サービスを示す概念。

（※4）サステナビリティ経営：企業が環境・社会・経済の3つの側面を考慮し、持続可能な社会の実現に貢献しながら、自社の持続的な成長と企業価値向上を目指す経営手法。



金沢テクノパークで新たに最新技術のボトリングシステムの部品加工、組み立てを行うS-X森本工場（金沢市北陽台1丁目）の完成予想図



新しい組立手法を導入するスマート工場として既存の敷地内に増設中の森本第3機械工場（金沢市北陽台2丁目）の完成予想図



既存の敷地内に増設し、需要拡大や顧客ニーズに迅速に対応できる能美第2機械工場（能美市福島町）の完成予想図



既存棟を解体し、RXなどの導入で医療機器のグローバル展開を目指す医療機器宮工場B棟（金沢市若宮2丁目）の完成予想図



澁谷 英利氏

澁谷工業株式会社代表取締役社長
しぶや・ひとし 1966年生まれ。89年中央大学商学部卒業後、丸紅入社。92年澁谷工業に入社し、プラント営業統轄本部製薬設備営業本部長、常務執行役員などを歴任。2011年常務取締役、20年専務取締役を経て21年9月代表取締役副社長、同年10月から現職。

創業から90余年、飲料無菌充填システムをはじめ、食品・医薬・医療・農業・半導体と幅広い分野を支える澁谷工業（金沢市）。100周年目前の2030年に向け、中期経営計画2027「シブヤ上げ戦略」を掲げました。2027年度には売上高1500億円を目標に、グローバル展開・DX（デジタル変革）・M&Aを通じた新事業創出に挑みます。変化の時代に不易流行（※1）の理念で成長を描く澁谷英利社長に、次のステージへの思いを聞きました。



新製品「新型2段階菌充填システム」の製造風景。ボトル殺菌に要する薬剤使用料の大幅な削減が可能となった。

